

人の五感を用いた児島湖の水質評価 令和5(2023)年度結果

1 人の五感による水質評価

児島湖の水質は、長期的には緩やかに改善してきましたが、近年は横ばい傾向にあります。岡山県及び岡山市では、児島湖の水を定期的に採取しCODや全窒素、全リンといった物質の濃度を測定することで水質の状況を把握していますが、県民の皆様にとってはわかりづらいものとなっています。

そこで、視覚や嗅覚などの五感を用いて児島湖の環境を調査できる「調べよう！児島湖調査隊マニュアル」を作成し、結果を点数化した指標により、児島湖の環境を総合的に評価しています。

2 調査概要

(1) 調査の時期や場所など

令和5年度は、湖畔の5地点で合計360名の方に調査していただきました。
調査日や場所は表1及び図1のとおりです。

表1 各調査の概要

場所	調査日	調査者	調査者数	天候
①	令和5年9月29日	福南中学校1年生	119名	晴
②	令和5年9月15日	政田小学校4年生	27名	晴
	令和5年10月17日	御津南小学校4年生	22名	晴
	令和5年10月19日	日比小学校4年生	13名	晴
	令和5年10月19日	今城小学校4年生	26名	雨
	令和5年11月20日	大崎小学校4年生	18名	晴
③	令和5年5月25日	大崎小学校4年生	17名	晴
④	令和5年5月16日	八浜小学校5年生	34名	晴
	令和5年6月27日	八浜小学校5年生	31名	晴
	令和5年10月3日	八浜小学校5年生	35名	晴
⑤	令和5年11月20日	大崎小学校4年生	18名	晴



図1 調査場所位置図

(2) 調査及び評価の方法

マニュアルに沿って、湖畔から見た景色やビンに採水した湖水のにおいなどを調査し点数を付けていただきました。

表2 評価項目と評価点の基準

評価項目	調査項目	評価点と評価基準
どんな見た目？	湖面の色 湖水の濁り ごみの散乱状況 自然（鳥や魚、植物）の様子	とても良い ⇨ どちらでもない ⇨ 悪い (5点) (3点) (1点)
どんなにおい？	湖水のにおい	におわない ⇨ におう ⇨ 臭い！ (5点) (3点) (1点)
どう聞こえる？	聞こえる音の心地よさ	心地よい音が聞こえた ⇨ 気になる音はない ⇨ うるさい！ (5点) (3点) (1点)
味わう？	漁獲物の食体験	とても食べたいと思った ⇨ 時々なら食べたい ⇨ 食べたくない (5点) (3点) (1点)
ふれあう？	湖畔でのレジャー体験	とても遊んでみたい ⇨ どちらでもない ⇨ まったく遊びたいと思わない (5点) (3点) (1点)

3 評価結果

全ての調査者の平均点は**3.5点**でした。

評価項目別の点数別の調査者数の割合及び平均点は図2のとおりです。

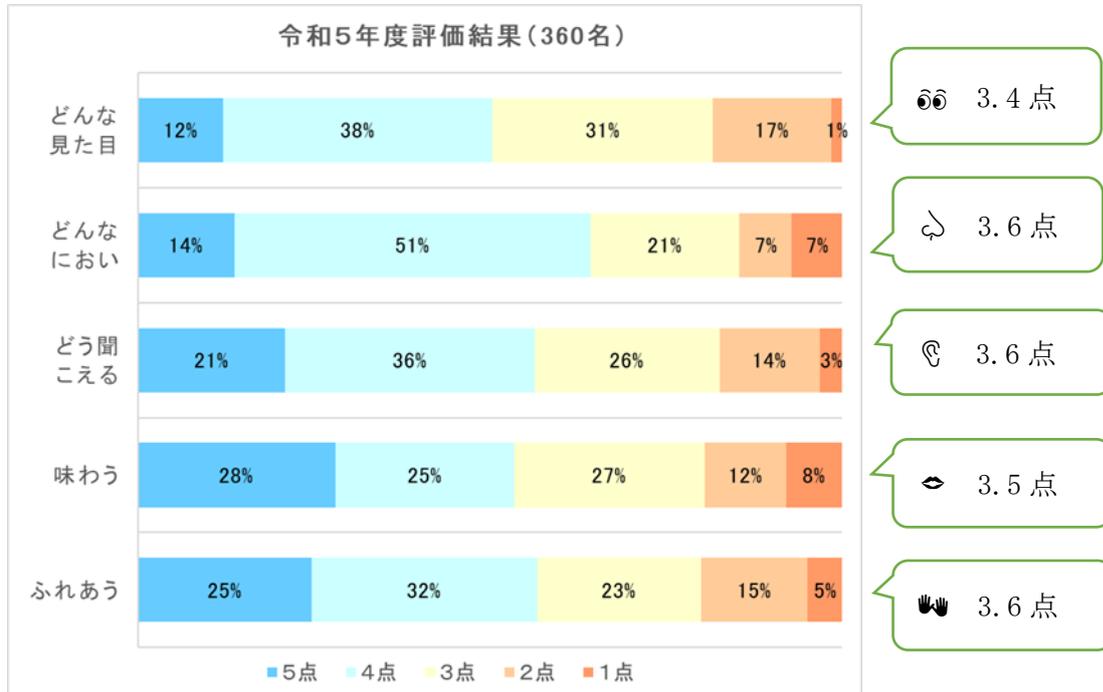


図2 項目別の平均点、点数別の調査者数の割合

いずれの項目も、調査者の半数以上が3点以上をつけていますが、湖面の色やごみの散乱状態を調査する「見た目」の評価が最も低く、それに次いで漁獲物を食べたいかを問う「味わう」の評価が最も低い結果となっています。

4 理想の児島湖

理想の児島湖に関する記述を集計した結果は表2のとおりです。

表2 理想の児島湖に関する回答数

記述内容		記述例	回答数※1	割合※2
見た目 関係	色の改善	透明、透き通っている	54	15%
	水質の改善	水がきれい、水質がいい	78	22%
	ごみ	ごみがない	101	28%
	生き物	動植物の種類が豊富、生き物がたくさんいる	72	20%
	その他	きれいな児島湖	101	28%
におい 関係		臭くない	30	8%
音 関係		心地よい音が聞こえる	8	2%
味わう 関係		おいしい生物がいる	7	2%
ふれあう 関係		自然とふれあえる	6	2%
レジャー 関係		釣りができる	35	10%
現状維持		今のままでいい	11	3%
無記入		-	40	11%

※1 複数の評価項目に対応する意見を記述している場合は、重複して計上

※2 調査者数に占める割合

調査項目別に振り分けると「見た目」に関する記述が多く、上記3評価結果においても「見た目」の評価が低いことから、「見た目」に関する改善が望まれていると考えられます。

<参考：調査場所別の評価結果>

総合点と評価点数の割合（令和5年度）

